

ある家族の肖像～被爆三世代の証言～

上松道夫監督作品 58分 Blu-ray 上映

【あらすじ】

2023年5月、ある家族三世代が神戸から旅に出た。目的地は祖父の被爆地・広島

78年前の薄れゆく“記憶”を取り戻すために…

凄惨な体験をした地で、果たして祖父・鈴木照二は何を思い出し、何を語るのか？

そして被爆二世である母・カオル、三世である娘・万祐子は、何を感じるのか？

カメラの前で、被爆三世代がそれぞれの思いを紡いだ…



祖父・鈴木照二さん（取材時 95 歳 被爆一世）

昭和 20 年 8 月、旧制広島高等学校 1 年在学時、勤労動員先の寮内で、原爆に遭遇。大きなけがはなかったものの、翌日から 1 週間、帰らぬ学友の姿を求めて爆心地付近を搜索。京橋川の河畔で凄絶な地獄絵を見た。長年、体内に悪性腫瘍をかかえており、孫にも被爆の影響が出たのではないかと案じている…



母・鈴木カオルさん（取材時 64 歳 被爆二世）

高校生の時、心臓に異常が発見され体調不良の日々を過ごす。結婚し一女を出産。その後も甲状腺の機能低下や、原因不明の症状に悩まされている。愛娘に甲状腺ガンが発見され、ショックを受ける。福島原発事故で避難を余儀なくされた子どもたちを、サマーキャンプに招待するボランティアに参加したことから、平和活動を推進することを決意。ピアニスト・金谷康佑とともに平和のイベントを赤字覚悟で主宰している。



一人娘・万祐子さん（取材時 26 歳 被爆三世）

たった一人の孫娘で、祖父から可愛がられた。大学で軽音学部にも所属し、ギターとヴォーカルを担当。卒業ライブを控えた四年次の 7 月、検査で甲状腺ガンが発見された。医師から「甲状腺の全摘手術で声帯を傷つけるかもしれない。手術の日までに一生分の歌を歌っておくように」と言われた。4 カ月後の手術当日、喉を広く切開しリンパも切除する大手術に臨んだ。果たして手術は成功し、再び歌うことができるようになるのか…



朗読・斉藤とも子（女優）

2023 年 4 月 22 日、広島のライブ・ジュークで行われた女優・斉藤とも子の朗読と、ジャズピアニスト・金谷康佑のコラボレーションをノーカット収録。爆心地近くで被爆し、小頭症児を出産したある被爆者の原爆症認定裁判での“陳述”を、斉藤とも子が渾身の朗読。恐ろしい原爆の実相と被爆者が背負わされた過酷な運命に胸を震わされる。



音楽・金谷康佑

ジャズピアニスト・作曲家。兵庫県出身、立命館大学卒業。関西を中心に活動。金谷康佑のオリジナル・アルバム『LYRICISM』から、「気だるい午後のワルツ」「邂逅」「私のこの人生」「家族の肖像～セピア色の写真～」など…澄んだピアノ・ソロが、ドキュメンタリー全編を彩る。2023年から、女優・斉藤とも子の朗読と共に「地球・平和、そして未来へ」と題したライブ活動を各地で行なっている。鈴木カオルと中学生時代の同級生。



撮影・編集・監督 上松道夫

1948年生まれ。1972年、テレビ朝日入社。数々の報道番組を制作。「報道ステーション」初代エグゼクティブプロデューサー。テレビ朝日退職後、フリーランスとしてドキュメンタリー制作を継続。2018年、テレメンタリー『追跡・原爆影響報告書』が、アジア・テレビジョン賞最優秀ドキュメンタリー番組にノミネート。2021年『ラストメッセージ“不死身の特攻兵”佐々木友次伍長』発表。映画雑誌「キネマ旬報」2024年ベストテンの文化映画部門で、奥村賢選考委員より1位に選出される。

